

令和5年6月定例会 総務県民生活委員会（急施議案）の概要

日時 令和5年6月23日（金） 開会 午後4時35分
閉会 午後4時57分

場所 第3委員会室

出席委員 松井弘委員長

小川直志副委員長

渋谷真実子委員、保谷武委員、松澤正委員、永瀬秀樹委員、
齊藤邦明委員、中屋敷慎一委員、野本怜子委員、水村篤弘委員、
権守幸男委員、岡村ゆり子委員

欠席委員 なし

説明者 三須康男総務部長、谷戸典子人財政策局長、高橋厚夫契約局長、
高窪剛輔人事課長、齊藤浩信職員健康支援課長、須田茂利文書課長、
渡邊和貴学事課長、岩崎正史税務課長、田中秀幸個人県民税対策課長、
平岩亮司管財課長、伊藤佳子統計課長、関根健総務事務センター所長、
中野純子行政監察幹、新井昌行入札課長、島崎二郎入札審査課長、
笠原英之県営競技事務所長

黒澤万里子秘書課長

唐橋竜一人事委員会事務局長、
西村憲一人事委員会事務局副事務局長兼総務給与課長、瀧澤幸子任用審査課長

中須賀淳県土整備部参事兼河川砂防課長

会議に付した事件並びに審査結果

1 議案

| 議案番号 | 件名 | 結果 |
|------|--|------|
| 第84号 | 工事請負契約の変更契約の締結について（社会資本整備総合交付金（河川）工事（庄兵衛堀川・導排水路工）） | 原案可決 |

2 請願 なし

【付託議案に対する質疑】

保谷委員

- 1 庄兵衛堀川では、どの程度の頻度で外水氾濫が発生しているのか。直近で発生した氾濫の時期と規模はどの程度であったのか。床下浸水や道路冠水の程度や損害額はどのくらいだったのか。
- 2 庄兵衛堀川は、農業用水だったのではないかと思うが、素掘りのシンプルな川で、堤防らしい堤防もない。こういった導排水路を設けるより、堤防を設けた方が工事も簡単で、金額も抑えられるように思えるが検討はしたのか。
- 3 流入部と吐出分については、今回の契約に含まれず別契約であるとのことだが、そのスケジュール、金額、最終的にどういうものができ上がるのか、いつから利用可能になるのか伺う。

参事兼河川砂防課長

- 1 平成29年の台風第21号と、令和元年東日本台風で浸水被害が生じており、その際、それぞれ約70ヘクタールの農地が浸水した。なお、家屋については浸水被害は発生していない。この2回の発生は確認されているが、何年に一度という形での頻度の整理はしていない。
- 2 浸水被害の早期対策を行う必要があったため、庄兵衛堀川に隣接した昭和沼を活用して、貯留施設を整備したのち、上流の河道拡幅と堤防の嵩上げを行っていく。
- 3 導排水路工のほか、三つの工事を予定している。一つ目は、庄兵衛堀川から導排水路を流れてきた水を工業団地調節池に流入させるための吐出施設である。発注金額は、1億2,078万円である。履行期間は、令和4年9月20日から令和5年9月29日までとしている。二つ目の工事は、庄兵衛堀川の洪水を導排水路に流入させるための流入施設である。発注金額は、8,910万円である。履行期限は、令和5年3月27日から令和5年12月20日までとしている。三つ目は、工業団地調節池に貯まった洪水を庄兵衛堀川に排水するための排水設備であり、令和5年度に発注する予定である。これら洪水調節施設について、令和6年度中に供用が開始できるよう、取り組んでいく。

岡村委員

今回の変更点は、履行期間の延長のみとのことだが、期限が延びれば当然、費用も増加するはずである。予算の増額補正がないのはなぜか。

参事兼河川砂防課長

現在、掘進機が地中の障害物に接触し停止しているが、築造中の導排水路内部への地下水や土砂の流入防止対策として、地盤を固める必要があった。このため、緊急的に薬液注入工事や、追加のボーリング調査を行ったが、これらは別途工事を発注していることから、履行期限のみ延長する。

岡村委員

今後の除去作業の状況や、他の部分で緊急的に対処する必要性が生じた、より大規模な工事が必要となったなど不測の事態が生じた場合には、予算の増額補正を行う可能性もあ

るということか。

参事兼河川砂防課長

工事再開後、不測の事態が生じた場合は、予算の増額補正について改めて御相談させていただくこともある。

野本委員

- 1 事前に行っていたボーリング調査について、何メートルおきにボーリング調査を行い、1番最初のボーリング調査地点は、ゴールから何メートルのところだったのか。
- 2 入札時の令和3年12月定例会での議事録では、3社が同じ入札金額であったとあった。ボーリング調査の内容を踏まえ、発注の際に県から事業者には指示は出していたのか。

参事兼河川砂防課長

- 1 おおむね75メートル間隔で調査を行っている。
- 2 ボーリング調査の結果については全て受注者に情報提供し、それを踏まえて工事を行っている。

野本委員

工業団地周辺ということもあり、団地を造成する際に出たコンクリートがらなどを付近に埋めた可能性なども考慮し、きめ細やかな調査が必要だったと考えている。県民目線からは安さだけではなく、工期を守り品質を伴った発注が大切である。調査は適正なものであったのか。

参事兼河川砂防課長

325メートルのトンネル延長に対し、75メートルピッチでボーリング調査を行っており、通常要求される水準でのボーリング調査は実施しているものと考えている。ただし、指摘についてはそのとおりであり、工事について、安全かつ早期に完了するよう引き続き取り組んでいく。

渋谷委員

障害物の除去や地質の調査には費用がかかると思うが、請負金額の変更がない。これらの費用について、請負業者の負担になることはないのか。

参事兼河川砂防課長

障害物の除去を行うため、土砂の流入対策として地盤への薬液注入やボーリング調査を行っているが、これらについては別途工事を発注し対応しており、負担を与えるものではないと考えている。

【付託議案に対する討論】

なし